



## 発刊にあたって

那 覇 港 管 理 組 合  
常勤副管理者 藤田佳久

皆さん、那覇港を訪れたり、那覇港の情報に接したりしたことがありますか。那覇港は、沖縄県最大の港湾です。沖縄県の海のゲートウェイとして、毎年約1千万トンに上る貨物が取り扱われ、約70万人の乗客が利用しています。また、波の上ビーチなどの賑わい空間もあります。その歴史は長く、15世紀には既に東アジアにおける中継貿易港としてその存在感を示していたことは、皆さんご存知の通りです。現在でも那覇港は沖縄県の経済や市民生活に大きな役割を担っています。

しかし一方で、那覇港の存在はあまりに当たり前すぎて、県民や市民、沖縄を訪問された方にとって、日常的にはあまり意識する事のない存在となっているような気がします。それ自体悪い事ではありませんが、那覇港に対する無関心につながっているとしたら問題です。この存在感の希薄さは、那覇港管理組合のPR不足も一因と考えています。

そこで、この「那覇港だより」の発行を企画した次第です。最近はその那覇港への大型クルーズ船の寄港や那覇うみそらトンネルの開通が話題となりましたが、マスコミに取り上げられる機会は限られています。那覇港ではどのようなことが行われているのか、最近の話題は何か、那覇港はどのような課題を抱えているのかなど、那覇港に関する情報をお届けしたいと思います。また、那覇港管理組合の仕事などについてもお知らせしたいと思います。

那覇港管理組合は、この4月に設立10周年を迎えます。より一層、利用しやすく、身近に感じる事ができる那覇港にしていきたいと考えています。「那覇港だより」はその取組みの一環としても位置付けております。那覇港についてのフレッシュな情報をご覧ください。

## 日本港湾振興団体連合会第45回通常総会が那覇港で開催！

(総務部総務課)

日本港湾振興団体連合会の第45回通常総会が、去る10月7日(木)から8日(金)にかけて「那覇港」で開催されました。前回那覇港で当連合会の通常総会が開催されたのは平成11年度ですから12年ぶりとなります。

総務課は当連合会に加盟している「那覇港振興協議会」の事務局を務めていることから、開催地としての準備を行いました(開催準備の苦勞?は多少ありましたが、今回は省略します。)

総会には全国各地から来賓及び会員80名余りが出席され、那覇港管理組合からも崎山議長や藤田副管理者等が来賓として出席しました。

総会では始めに当連合会 平松会長の主催者挨拶があり、那覇港振興協議会 比嘉会長の歓迎挨拶のあと、室井国土交通大臣政務官、与世田副知事から来賓挨拶がありました。

また、総会終了後に行われた記念講演会では、商船三井客船株式会社 萩原代表取締役社長による「にっぽん丸 飛んでクルーズ沖縄」と琉球大学 高良教授による「琉球王朝時代の那覇港の歴史」と題する講話があり、会場では熱心に聞き入る参加者の姿が見えました。

今回の総会受入れについて担当者の所感としましては、大きな混乱?もなく、議事等も滞りなく進みましたので、上出来であったと考えています。

最後に当管理組合関係者による挨拶等が懇親会でありましたので、その雄姿を写真により紹介します。

ニコニコ

カンパニー!



【藤田副管理者による来賓挨拶】



【崎山議長による乾杯の音頭】

～次回(平成24年度)の通常総会は、世界遺産 姫路城でお馴染みの「姫路市」で開催されます。～

## 那覇港管理組合？議会？

(議会事務局)

那覇港管理組合は、特別地方公共団体（一部事務組合）です。一般にはあまり聞き慣れない言葉ですが、沖縄県・那覇市・浦添市が共同して那覇港湾に関する事務を行うために設立された小さな地方公共団体で、組合独自の議会が設置されています。

那覇港管理組合の議会は、定例会が年3回、臨時会や特別委員会が不定期に開催されます。また組合の議員は、それぞれ沖縄県(5名)・那覇市(3名)・浦添市(2名)の各議会より合計10名が選出されています。

今年度の活動としては、6月臨時会で議決された「新たな沖縄振興において那覇港への支援を求める意見書」を6月24日に、議長以下4名の議員により、沖縄県知事へ手交いたしました。

また、去る11月の定例会においては、新たに那覇市より山川典二議員を迎え、平成23年度一般会計補正予算等3件の議案について、活発かつ厳しい質疑が繰り広げられました。

そんな議会及び議会活動のスムーズな運営を支える縁の下の力持ち？が議会事務局の役目です。事務局長の下、議事係・庶務係に職員が3名配置されており、総務部総務課職員が兼務しながら職務に励んでいます。





## 合同パトロールについて

(総務部業務課)

若狭海浜公園周辺には、那覇市唯一の海浜ビーチである「波の上ビーチ」があります。また、平成 22 年度以降、クルーズ船専用の大型旅客船バースや那覇港と那覇空港を連結する臨港道路空港線の開通により、最近、特に国内外からの観光客、一般県民の利用が増え、施設周辺の環境整備、美化等が必要な地域となってきています。

そこで那覇港管理組合では、平成 20 年 8 月から近隣の若狭地域、久米地域の住民、NPO 地域サポートわかさ、那覇市、那覇市観光協会、那覇警察署等と連携し、この地域一帯の清掃活動やホームレス指導等を目的とした合同パトロールを実施しています。その数、約 20 名、これまで月 1 回のペースで平成 24 年 3 月で 34 回を数えました。

お陰様で、以前あった不法投棄やホームレス等の数は、激減し、緑地でグラウンドゴルフをするお爺ちゃん、お婆ちゃん、散歩をする保育園児、ジョガー等から「ずいぶんきれいになった。」などの評価を頂いています。

しかし、未だ完全に、不法投棄やホームレス等がなくなった訳ではなく、これからも地域住民、関係者のご協力を得ながら地道な活動を継続していくことでより安全、安心な緑地環境が作り出せるものと考えています。



**みなさんも、合同パトロールに参加し、一緒に汗を流しましょう！**

若狭地区合同パトロールは毎月第 3 木曜日、午後 14 時頃から実施しています。  
詳しくは 那覇港管理組合 業務課 (TEL ; 098-862-2328 ) まで

## 2011年のクルーズ船寄港実績及びクルーズについての課題

(企画建設部企画室)

那覇港は国内有数のクルーズ船寄港地であることを知っていますか？

那覇港へは年間約 50 から 60 回のクルーズ船の寄港があり、そのうち外国クルーズ船が 8 割から 9 割を占めています。この外国クルーズ船の寄港回数が、例年トップ 3 入りを果たしており、2008 年、2009 年は日本一になりました。

2011 年は全体で 53 回の寄港があり、外国船の寄港回数は 37 回と全国第 2 位でした。ちなみに第 1 位は石垣港の 42 回です。

また、2011 年 2 月からは「にっぽん丸」による県内発のフライ&クルーズがスタートしました。これは、飛行機で県内へ乗り入れ、船に乗船しクルーズを楽しんだ後、飛行機で帰るといった新しい旅のスタイルで、クルーズ前後の県内での宿泊、観光による経済効果も期待できます。フライ&クルーズは今後も予定されており、その定着に向け関係機関とともに取り組んでいます。

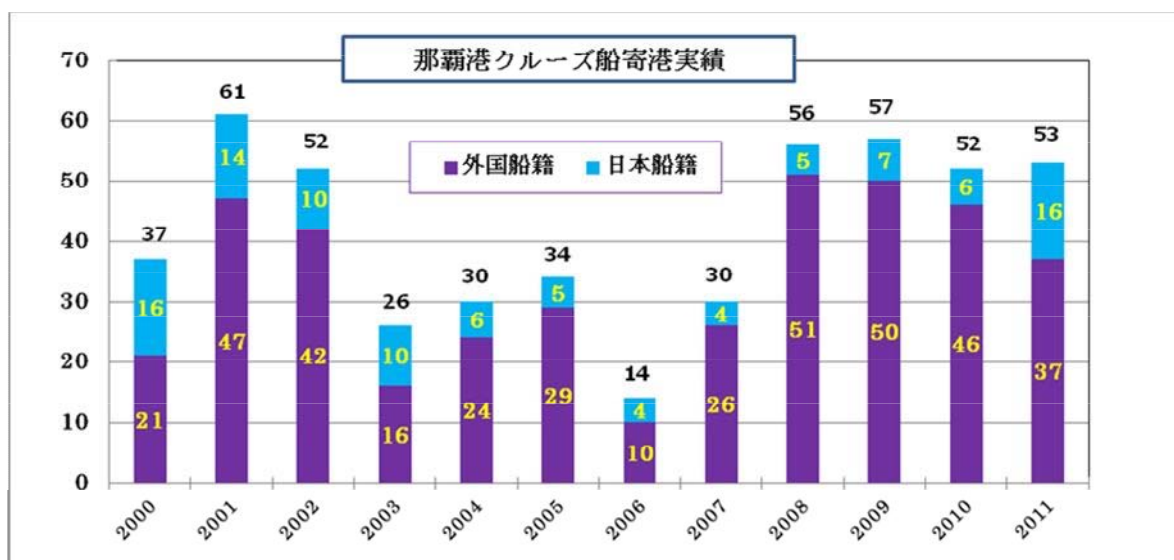
2012 年は約 65 回（平成 24 年 3 月末時点）の客船寄港が予定されており、好調が続けていますが、なんとと言っても最大の話題は、過去最大の大型客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」（総トン数：137,276 トン、全長：310m）が寄港することです。

乗客乗員合わせて最大 5,000 人が収容できる大型船で、バスやガイドの手配など色々と課題もありますが、万全の態勢で受け入れ出来るよう準備を進めているところです。

最後となりますが、皆さまもクルーズ船を間近で感じてみませんか？

那覇港ではクルーズ船の入出港時にセレモニーを実施し、おもてなしの雰囲気作りに取り組んでいます。また、定期的に船内見学会を実施しており、皆さまの参加をお待ちしています。

一緒になって沖縄・那覇のクルーズを盛り上げていきましょう！



## 那覇港国際コンテナターミナルにおけるコンテナ取扱実績

(企画建設部企画室)

那覇港国際コンテナターミナルは、日本で初めて純民間企業により運営がなされている公共コンテナターミナルです。

構造改革特別区域法により那覇国際コンテナターミナル株式会社（Naha International Container Terminal Inc.：頭文字を取ってNICTI）を事業者に選定し平成18年1月1日より運営が開始されました。

運営を開始した平成18年は約6万4千TEUほどのコンテナ取り扱いでしたが、その後順調に取扱量を伸ばし、平成23年には8万9千TEUを取り扱うまでになりました。

